

【01】ディーパンカラ仏から記別を受ける

ディーパンカラ (Dīpaṅkara 燃灯) 仏在世のとき、釈尊の前生であるスメータ (Sumedha 無垢光) が泥濘に髪を敷いて仏を供養し、将来成仏して釈迦牟尼仏となるとの記別を受ける。

[A] 原始聖典

- ① ‘Buddhavaṃsa’ 02-59~65 (p.012) ; 髪を毛を泥の上に布いてうつ伏せになった私の頭のところに立って、Dīpaṅkara仏はこういわれた。「この苦行者 (tāpasa) である結髪行者 (jaṭila) を見よ。今より無量劫の後に仏となるだろう、如来はカピラと名づける美しい都から出家して、精進・努力し、苦行を行じて、アジャパーラ樹の下で (Ajapālarukkhamūlasmiṃ) 乳粥 (pāyāsa) を受け、ネーランジャラー (Nerañjarā) 河に至り、その岸辺にて乳粥を食して、菩提道場 (bodhimaṇḍa) に行つて、アッサッタ樹の下で (assattharukkhamūlamhi) 成仏するであろう (bujjhissati) 。生母はマーヤー (Māyā) という名で、父はスッドーダナ (Suddhodana) という名、この者はゴータマとなろう」と。
- ① ‘Apadāna’ 03-49-486 (p.429) ; Dīpaṅkara仏・勝者 (Jina) はSumedhaを記別して、今より無量劫の後にこの者は仏となるだろう、この者の生母はマーヤー (Māyā) という名で、父はスッドーダナ (Suddhodana) という名、この者はゴータマで、精進・努力し、苦行を行じて、アッサッタ樹の下で (assatthamūle) 、大名声ある等正覚者として成仏するであろう (bujjhissati) 。
- ⑥増一阿含20-03 (大正02 p.599中) ; 時彼梵志手執五茎華。右膝著地。散定光如来。並作是説。持是福佑、使将来世当知定光如来至真等正覚、而無有異。即自散髮在于淤泥、若如来授我決者、便当以足踏我髮上過。比丘当知。爾時定光如来觀察梵志心中所念、便告梵志曰。汝将来世当作釈迦文仏。如来至真等正覚。
- ⑥増一阿含43-02 (大正02 p.758中) ; 梵志は五華をもって灯光如来に奉上し、髪を地に布いて授記を乞うた。「是時灯光仏、知梵志心中所念。即告之曰。汝速還起。将来之世当成作仏、号釈迦文如来至真等正覚」
- ⑦四分律「受戒毘度」 (大正22 p.785中) ; 摩納即解髻髮以布泥上、心発願言。若今定光如来、不授我別者、我当於此処形枯命終、終不起也。……汝於当来無数阿僧祇劫、号釈迦文如来至真等正覚明行足為善逝世間解無上士調御丈夫天人師仏世尊。
- ⑩根本有部律「破僧事」 (大正24 p.116上) ; 昔有誓願今応思 然灯如来先授記 衆生多拘苦惱中 応速捨家求正道 我今亦能作如是 及彼梵王諸天等 当令汝得無障礙 詣樹林中修正覚
- ⑫「央掘魔羅經」 (大正02 p.537中) ; 我於無量阿僧祇劫恒河沙生、於灯光如来所修菩薩行聞自受記。

[B] 仏伝経典

- ①NK. (vol. I p.015, 南伝28 p.027) ; ディーパンカラ (Dīpaṅkara) 世尊は……泥土の上に臥しているスメータ (Sumedha) 行者を見給い、……四阿僧祇十万劫の後 (ito kappasatasahassā-dhikānaṃ catunnaṃ asaṃkheyyānaṃ mattake) 瞿曇 (Gotama) という仏と成るであろう。そしてその生では、迦比羅衛 (Kapilavatthu) という都がこの人の住処であり、摩耶 (Māyā) という妃が母、スッドーダナ (Suddhodana 浄飯) という王が其父、最上首の弟子は優婆帝沙 (Upātissa 舍利弗) という長老、そして第二の弟子を拘利多 (Kolita 目犍連) といい、仏の侍者を阿難陀 (Ānanda) といい、最上首の女弟子は讖摩 (Khemā) という長老尼、第二の女弟子はウッパラヴァンナー (Uppalavaṇṇā 蓮華色) という長老尼である。……ニグローダ (榕樹) の下で乳糜〔の供養〕を受け、尼連禪 (Nerañjarā) 河の畔でそれを啜り、菩提道場に上つて阿説他 (a

ssattha 菩提) 樹の下で上正覚を得るであろう。

- ②修行(大正03 p.462中) ; 菩薩(無垢光) 歡喜、布髮著地、願尊踏之。……仏(錠光仏) 告童子。汝却後百劫、当得作仏、名釈迦文漢言能仁如来無所著至真等正覚。劫名波陀、漢言為賢。世界名沙椽、漢言恐畏国土。父名白淨、母名摩耶、妻名裘夷、子名羅雲。侍者名阿難、右面弟子名舍利弗、左面弟子名摩訶目犍連。教化五濁世人、度脱十方、当如我也。
- ④瑞応(大正03 p.473上) ; 仏(定光仏) 知至意、因記之曰。……汝(儒童) 自是後九十一劫、劫号为賢、汝当作仏、名釈尊文。天竺語釈迦為能文為儒義名能儒。……乃解髮布地、令仏踏而過。仏又称曰。汝精進勇猛、後得仏時、当於五濁之世、度諸天人、不以為難必如我也。
- ⑤異出(大正03 p.617下) ; 仏(提想竭羅仏) 知菩薩(摩納) 至心。却後九十劫、劫名拔羅、汝当為釈迦文仏。菩薩聞仏語、心中大歡喜、即布髮令仏足踏之。……仏復言。令汝後世得道度世、亦当如我作仏。
- ⑥普曜(大正03 p.502下) ; (出家時に応出家という兜術天子が説く偈の中で) 念定光受決 至誠無虚妄 暢最勝音響。
- ⑦方広(大正03 p.541上) ; 尊憶然灯記 積集無辺福 超越於生死 智慧発光明。
- ⑦方広(大正03 p.607中) ; (初転法輪時) 尊憶過去時 然灯仏授記 当得成正覚 号名曰牟尼尊。
- ⑧LV. (Lef. p.011, 外蘭・梵 p.288, 外蘭・訳 p.715) ; 広大なる福德を集積し、正念・理解・証知は無辺にして、智慧の光明を発する者よ、剛力無双にして、勇猛絶大なる者よ、ディーパサハ(Dīpasaha) なる者(ディーパンカラ仏)の授記を想起せよ。
- ④過去(大正03 p.622中) ; 於是普光如来、以無碍智、讚善慧言。善哉善哉、善男子、汝以是行、過無量阿僧劫、当得成仏。号釈迦牟尼如来应供正遍知明行足善逝世間解無上士調御丈夫天人師仏世尊。……即脱皮衣、以用布地、不足掩泥、仍又解髮、又以覆之。如来即便踐之而度、因記之曰。汝後得仏当於五濁惡世、度諸天人、不以為難、必如我也。
- ⑤集経(大正03 p.668中) ; 時然灯仏、告比丘言。比丘、汝見是摩那婆(雲童子=菩薩)、持七茎花、供養於我、伏身被髮、泥上作橋、令我踐渡。以是事故、此摩那婆、過於阿僧劫、当得作仏、号釈迦牟尼多陀阿伽度阿羅呵三藐三仏陀、十号具足、如我無異。
- ⑥MV. (vol. I p.239, Jones I p.195) ; ディーパンカラ(Dīpaṅkara) 仏は、彼(Megha童子=菩薩) は、この上ない完全な悟りを得るであろうと宣言した。「お前は、阿僧祇劫後の将来(anāgatam adhvaṇaṃ aparimite asaṅkhyeye kalpe)、シャカ族の都カピラヴァストゥ(Kapilavastu) において、釈迦牟尼(Śākyamuni) という名の如来になるであろう」。

[C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦(大正50 p.004下) ; 錠光授記表号釈迦。玄符冥契故託化釈種。
- ④統紀(大正49 p.137下) ; 次値一仏、名曰然灯。……我為儒童、以青蓮華、供養彼仏。為我授記、過阿僧祇劫、当得作仏号釈迦牟尼。
- ④統紀(大正49 p.138中) ; 按因果経云。……即脱鹿皮衣以用布地不足掩泥。又解髮以覆之。
- ⑤JM. (p.010, 畑中 p.040) ; その時、ディーパンカラ(Dīpaṅkara) 世尊は「これより四阿僧祇十万劫の未来に(ito kappasatasahassādhikānaṃ catunnaṃ asaṅkheyyānaṃ mattake)、彼は世間においてゴータマ(Gotama) と呼ばれる仏陀となるであろう」と菩薩(Sumedhaなるバラモン) に授記した。
- ⑥Bigandet. (vol. I p.009, 赤沼 p.011) ; 須弥陀(Thoameda) 隠者は、仏陀(燈作仏=Deipinkara) に対して帰敬渴仰の念に堪えず、何の躊躇もなく道普請の出来上らなかつた凹地に身を横たえ、腹を下にし、背を上にし、身を以て橋梁となし、仏陀及び仏弟子のこれを横ぎり亘り給

わんことを願うた。……又仏陀は……須弥陀は四阿僧祇劫と十萬の成壞劫との後、賢劫に顯われ給う第四仏として正覺を開くであろうと授記し給うた。

【02】兜率天に住む

釈尊が一生補處の菩薩として兜率 (Tusita) 天に生れる。

[A] 原始聖典

- ①MN.123 ‘Acchariyabbhutadhamma-s.’ (希有未曾有法經 vol.III p.119) ;念あり、知あつて、菩薩は兜率天身に生まれた (Bodhisatto Tusitaṃ kāyaṃ uppajji) 。
- ① ‘Suttanipāta’ Vs.955 (p.185) ;尊者舍利弗が言った。私はこんなことを以前に見たこともない、聞いたこともない (na me diṭṭho ito pubbe …… na-ssuto uda kassa ci) 、好もしき言葉を語る者である師主が集團の長としてこのように兜率天からやって来られたのを (evaṃ vagguvado satthā Tusitā gaṇim-āgato) 。
- ③中阿含032「未曾有經」 (大正01 p.469下) ;我聞世尊迦葉仏時始願仏道行梵行、生兜瑟哆天… …。
- ①根本有部律「破僧事」 (大正24 p.102上) ; (吉枳王の時) 爾時迦葉波如来応供正遍知明行足善逝世間解無上土調御丈夫天人師仏薄伽梵。出興於世。時彼釈迦牟尼菩薩、於迦葉仏所、発阿耨多羅三藐三菩提心、淨修梵行生觀史多天。
- ②闍那崛多等訳「起世經」 (大正01 p.364上) ; (雞梨祁王の時) 爾時有迦葉如来阿羅訶三藐三仏陀出現世間。菩薩於彼修行梵行、生兜率天。
- ②達摩笈多訳「起世因本經」 (大正01 p.419上) ;彼 (枳梨祁王) 時、有迦葉如来阿羅訶三藐三仏陀出現世間、菩薩於彼修行梵行、生兜率天。

[B] 仏伝経典

- ①NK. (vol.I p.047, 南伝28 p.100) ;その大地の震動するほどの大功德を行い、その (ヴェッサンタラ [Vessantara=菩薩] 王子としての) 寿命が尽きたとき、其処から死んで兜率 (Tusita) 天に生まれられた。
- ②修行 (大正03 p.462下) ;能仁菩薩承事錠光。至于泥日奉戒清淨守護正法慈悲喜護恵施仁愛利人等利救済不倦寿終上生兜術天上。
- ④瑞応 (大正03 p.473中) ;菩薩於九十一劫修道德学仏意通十地行在一生補處後生第四兜術天上。
- ⑤異出 (大正03 p.618上) ;凡三十六為天帝釈、八萬四千世、為飛行皇帝。如是寿命終以後、即上生第四兜率天上。
- ⑥普曜 (大正03 p.484上) ;何謂比丘、普曜経典大方等法。於斯菩薩住兜術天、咸見奉敬逮得無余阿惟顔住。
- ⑦方広 (大正03 p.540上) ;何等名為方広神通遊戯大蔵経典。所謂顯於菩薩住兜率宮、常為無量威徳諸天之所供養。
- ⑧LV. (Lef. p.010, 外蘭・梵 p.286, 外蘭・訳 p.714) ;無量無数の衆生を昇天と解脱との道に導き、無上正等覺を正覺せんと欲し、一生補處となり、この〔人間の〕世から没して、兜率 (Tusita) 天の端巖なる宮殿に住し、シュヴェータケート (Śvetaketu 淨幢) と名づける最上なる天子として……。
- ⑩十二 (大正04 p.146中) ;菩薩在兜術天上、意欲下生觀於天上誰国可生。
- ⑬行経 (大正04 p.057上) ;処兜術宮時 以天眼普 觀觀衆生苦惱 追憶往古誓

- ⑭過去（大正03 p.623上）；爾時善慧菩薩、功行滿足、位登十地、在一生補處、近一切種智、生兜率天、名聖善白。
- ⑮集經（大正03 p.676中）；爾時護明菩薩大士、從於迦葉世尊所護持禁戒、梵行清淨、命終之後、正念往生兜率陀天。
- ⑯MV. (vol. I p.357, p.366, Jones I p.302, p.311)；12年のうちに (dvādaśehi varṣehi)、菩薩はトゥシタ天の住所を離れるだろう。
- ⑰衆許（大正03 p.938中）；時釈迦菩薩在兜率天宮、欲生人間、作五種觀察。

[C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦（大正50 p.004下）；菩薩住兜率天。（出普曜經）
- ①釈迦（大正50 p.013中）；爾時善慧菩薩功德行滿足、位登十地在一生補處、……生兜率天、名聖善白。（出因果經）
- ③氏譜（大正50 p.088中）；因果經云。釈迦如來未成仏時、為大菩薩名曰善慧。功行滿已位登補處。生兜率天名曰聖善。
- ④統紀（大正49 p.138中）；我如是、奉事諸仏、修學仏意、爾乃生兜率天宮、住一生補處位。
- ⑤JM. (p.024, 畑中 p.092)；ディーパンカラ (Dīpaṅkara) の足もとで決意をした我らの菩薩は、このように純粋なマハーサンマタ (Mahāsammata) の王統におけるヴェッサンタラ (Vessantara) の生涯に在って、7度大地を震わせて婆羅門にジャーリン (Jālin) とカンハ (Kaṅha) という2人の息子を与え、翌日、〔天帝〕サッカ (Sakka) へのマッディー (Maddi) 王妃の施与によって波羅蜜の頂点に達し、寿命尽きた時、そこから死没して兜率天宮に生まれた。
- ⑥Bigandet. (vol. I p.012, 赤沼 p.016)；この間、未来の釈迦牟尼仏 (Gautama) となり給うべき我等の菩薩は天界兜率 (Nats) に住み給うたのである。

【03】兜率天において世間を觀察する

菩薩が兜率天において、生れるべき国・時期・家系などを觀察する。

[A] 原始聖典

- ①根本有部律「波逸底迦058」（大正23 p.844上）；如仏往昔為菩薩時在觀史天宮、將欲下生贍部洲内、作四種觀察。
- ①根本有部律「苾芻尼波羅市迦001」（大正23 p.907下）；爾時菩薩在觀史天宮、將欲下生、先以五事觀察世間。云何為五。一觀遠祖、二觀時節、三觀方国、四觀近族、五觀母氏。時六欲天來至母所、三淨其腹。摩耶夫人因寢、夢見六牙白象來降腹中。
- ①根本有部律「出家事」（大正23 p.1020下）；爾時菩薩在觀史天宮、觀察世界、有五事具處、將欲下生。時六欲諸天、辦所應辦、於迦維羅衛国、闍頭檀家、三淨摩耶夫人胎中、乃令獲大吉夢。見菩薩作白象形、降神母胎。
- ①根本有部律「破僧事」（大正24 p.106中）；菩薩若在觀史多天、常有五法觀察世間。何謂五法。一者觀察生處、二者觀察国土、三者觀察時節、五者觀察所生父母。
- ①根本有部律「雜事」（大正24 p.297下）；是時菩薩於天宮上、以五種事觀察世間。云何為五。一觀遠祖、二觀時節、三觀方国、四觀近族、五觀母氏。六欲諸天三淨母腹、摩耶夫人因寢夢見六牙白象來降腹中。
- ①根本有部律「雜事」（大正24 p.395中）；爾時世尊為菩薩時在觀史多天、以五種事觀察世間。六欲天子三淨母腹、現白象相來入母胎。

- ①根本有部律「雜事」（大正24 p.399中）；菩薩昔在觀史天宮、將欲下生觀其五事。
 *⑥増一阿含48-03（大正02 p.788上）；彌勒菩薩於兜率天觀察父母不老不少。便降神下忉從右脅生。
 如我今日右脅生無異。

[B] 仏伝經典

- ①NK. (vol. I p.048, 南伝28 p.103)；五種觀察 時機……寿命の長さが十万歳より下、百歳より上の時。国土……閻浮提。地方……中部地方（律藏に説かれている）、カピラヴァツツ。家系……刹帝利か婆羅門、浄飯王。母親およびその寿命の長さ……マハーマーヤー、十ヶ月と七日間。
- ②修行（大正03 p.463上）；興四種觀。觀視土地、觀視父母、生何國中教化之宜先当誰、白浄王者、是吾累世所生之父。
- ④瑞応（大正03 p.473中）；託生天竺迦維羅衛國。父王名白浄、聡叡仁賢、夫人曰妙、節義温良。迦維羅衛者、三千日月二千天地之中央也。
- ⑥普曜（大正03 p.485中）；諸眷屬衆各六十六億、咸共講議、当使菩薩現生何種。
- ⑦方広（大正03 p.541下）；以四種心而遍觀察。一、時……世間衆生が老病死の苦があることを明らかに予知する劫滅の時。二、方……閻浮に現ず。三、国……中国。四、族……刹帝利種および婆羅門。
- ⑧LV. (Lef. p.019, 外蘭・梵 p.304, 外蘭・訳 p.729)；四種の大觀察。時……世界が安定し、生老病死が知られたとき。洲……ジャンブドヴィーパ（閻浮提）。国……中央の国土。種姓……バラモンかクシャトリヤ。
- ⑨僧伽（大正04 p.122中）；觀有為行無常心無乱想。常自觀察知所從生處。亦復自知更不受胎。
- ⑩十二（大正04 p.146中）；意欲下生觀於天上誰国可生。言唯白浄王家可生身。
- ⑬行經（大正04 p.57下）；善妙称吾意 応託生為子 白浄男中上 妙后女中英 諸城邑之中 迦夷羅越最 今日吾当降 施善於世間
- ⑭過去（大正03 p.623上）；即觀五事。一者觀諸衆生熟與未熟、二者觀時至與未至、三者觀諸国土何国處中、四者觀諸種族何族貴盛、五者觀過去因縁誰最真正應為父母。
- ⑮集經（大正03 p.677下）；金団（兜率天衆の中的一天子）が護明菩薩に言う。「有一刹利。元本已來、從於大衆、平量安立。世世轉輪聖王之種、乃至甘蔗苗裔已來、子孫相承、在彼迦毘羅婆蘇都釈種所生。其王名為師子頰王、其子名為輪頭檀王、一切世間天人之中、有大名称、尊者堪為彼王作子。」
- ⑯MV. (vol. II p.001, Jones II p.001)；菩薩はトゥシタ (Tuṣita) 天から去るにあたり、4つの大觀察をする。即ち、彼が生まれるべき時と場所と大陸と家族である。
- ⑰衆許（大正03 p.938中）；五種の觀察 一、種姓……刹帝利の家。二、国土……中国。三、時分……滅劫百歳之時。四、上族……浄飯王。五、母身……摩耶。

[C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦（大正50 p.004下）；究竟菩薩一生補處、所可降神種姓云何。（出普曜經）
- ①釈迦（大正50 p.013下）；……至当下作仏、即觀五事。（出因果經）
- ③氏譜（大正50 p.087上）；（太子瑞応本起經を引用）
- ③氏譜（大正50 p.088中）；（普曜經、因果經を引用）
- ④統紀（大正49 p.141中）；期運將至、当下作仏、即觀五事。觀諸衆生、皆是我發心已來所成熟者、堪受妙法。觀此大千界、閻浮提迦毘羅國、最為處中。……觀釈迦第一甘庶聖王之後觀白浄王夫妻真正堪為父母……觀摩耶夫人懷抱太子。滿足十月、生七日已。其母命終。

- ⑤JM. (p.025, 畑中 p.097) ; その時菩薩は、このように神々に乞われながらも神々に約束せずに、時、国土、地方、種姓、生母、その寿命の長さから成る五大観察をした。
- ⑥Bigandet. (vol. I p.022, 赤沼 p.030) ; 菩薩は……仏陀のこの世に出世し給うに就ては、いろいろ必要な事情があるが、……その事情というのは、仏陀の顯われ給うべき時期、出生の地、出生の種姓、仏母となり給う夫人の年齢及びその性質等のことである。

【04-01】釈尊の家系——先祖・種姓

人類誕生から王族階級の発生を経て、ラーフラに至る家系を示す。

[A] 原始聖典

①DN.003 ‘Ambaṭṭha-s.’ (阿摩昼經 vol. I p.092) ; 釈迦族はOkkāka王を祖先とする。王は寵愛する妃の王子に王位を譲ろうとして、四人の王子Okkāma, Karaṇḍu, Hatthiniya, Sinipuraを国外に追放した。彼らは雪山のふもと (Himavanta-passa) に住み、自分たちの姉妹を妻とした。彼らが釈迦族の先祖である。

① ‘Suttanipāta’ Vs.422~423 (p.073) ; (ピンピサーラ) 王よ、雪山のふもとに (Himavanta-passa) 正直な民族がいて、コーサラ地方に住み、富と勤勉とを備えています。姓をĀdiccaといい、種族をSakiyaといいます。王よ、私は家から出家したのであって、欲望をかなえるためにではありません。

②長阿含020「阿摩昼經」 (大正01 p.082下) ; 昔声摩という王があり、面光・象食・路指・莊嚴という四人の王子がいた。王子らに過失があったので、王は彼らを国外に追放した。彼らは雪山の南に住み、姉妹等と夫婦になった。これが釈種の始まりである。

②長阿含030「世記經」 (大正01 p.148下) ;

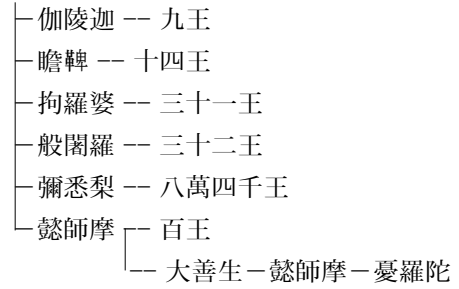
民主—珍宝—好味—静斎—頂生—善行—宅行—妙味—味帝—水仙—百智—嗜欲—善欲—断結—大断結—宝蔵—大宝蔵—善見—大善見—無憂—洲渚—殖生—山岳—神天—遣力—牢車—十車—百車—牢弓—百弓—養牧—善思

- 伽窶龐 -- 五轉輪聖王
- 多羅婆 -- 五轉輪聖王
- 阿葉摩 -- 七轉輪聖王
- 持施 -- 七轉輪聖王
- 伽楞伽 -- 九轉輪聖王
- 瞻婆 -- 十四轉輪聖王
- 拘羅婆 -- 三十一轉輪聖王
- 般闍羅 -- 三十二轉輪聖王
- 彌私羅 -- 八萬四千轉輪聖王
- 声摩 -- 百一轉輪聖王 (最後有王、名大善生)
- 烏羅婆—渠羅婆—尼求羅—師子頰—白淨王—菩薩—羅睺羅

⑦四分律「受戒捷度」 (大正22 p.779上) ;

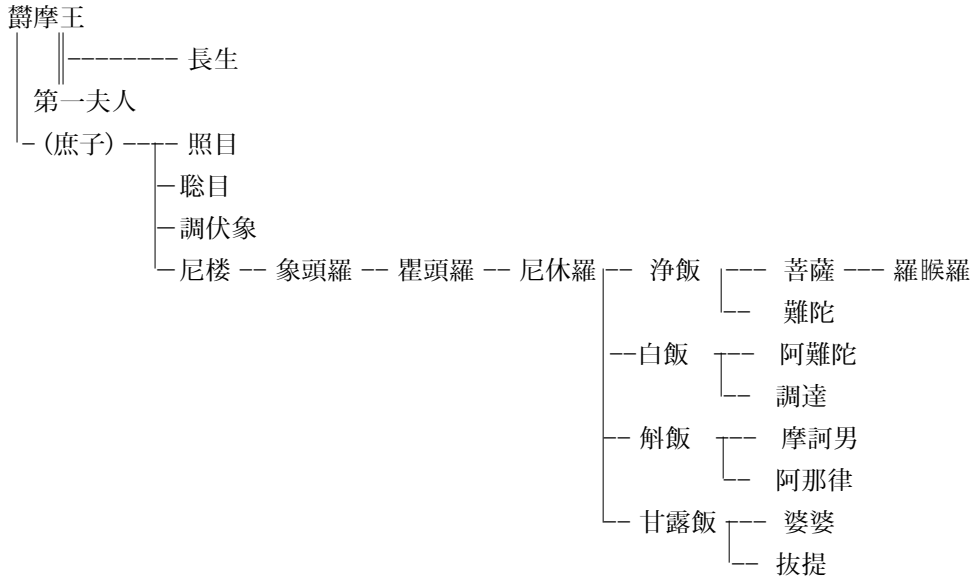
大人—善王—楼夷—齊—頂生—遮羅—跋遮羅—微—微麟陀羅—鞞醯梨肆—舍迦陀—楼脂—修楼脂—波羅那—摩訶波羅那—貴舍—摩訶貴舍—善現—大善現—無憂—光明—梨那—彌羅—末羅—精進力—牢車—十車—百車—堅弓—十弓—百弓—能師子—真闍

- 伽窶支 -- 五王
- 多楼毘帝 -- 五王
- 阿湿卑 -- 七王
- 乾陀羅 -- 八王



— 瞿羅 — 尼浮羅 — 師子頰 — 悅頭檀 — 菩薩 — 羅睺羅

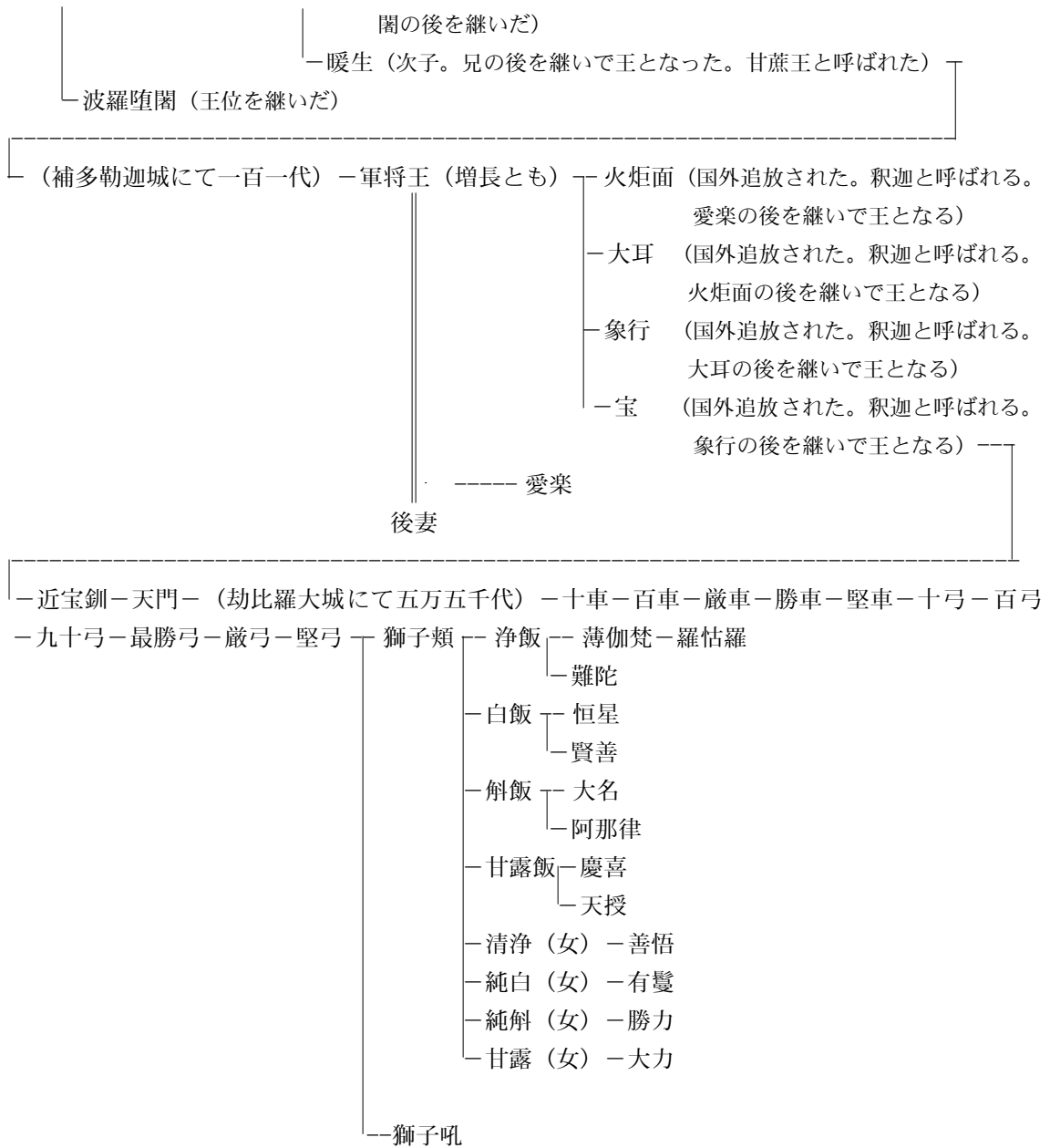
⑧五分律（大正22 p.101上）；



⑩根本有部律「破僧事」（大正24 p.100下）；

大同意 — 意樂 — 善德 — 最勝善 — 長淨 — 頂生（持養） — 端巖 — 近端巖 — 端巖足生 — 極端巖 — 愛樂 — 善樂 — 能捨 — 極捨 — 支車 — 巖車 — 小海 — 中海 — 大海 — 瑞鳥 — 大瑞鳥 — 香草 — 近香草 — 大香草 — 善見 — 大善見 — 極愛 — 大愛 — 妙声 — 大妙声 — 作光 — 有威 — 广大 — 大彌樓 — 有彌樓 — 広慧 — 艶光 — 有艶 — 有大艶 — （富多羅城にて百代） — 調怨 — （無闍城にて五万四千代） — 無能勝 — （波羅痾斯城にて六万三代） — 難当 — （金毘羅城にて八万四千代） — 梵授 — （象造城にて三万二千代） — 象授 — （削石城にて五千代） — 及時王 — （広肩胸城にて三万二千代） — 童勝力 — （無勝城にて三万二千代） — 上勝 — （妙童女城にて一万二千代） — 勝軍 — （瞻婆城にて一万八千代） — 龍天 — （末利城にて二万五千代） — 人天 — （多摩栗坻城にて一万二千代） — 海天 — （歡喜城にて一万八千代） — 善惠 — （王舎城にて二万五千代） — 除闇 — （波羅痾斯城にて一百代） — 大帝軍 — （俱尸那城にて八万四千代） — 海神 — （布多羅城にて一千代） — 修行 — （俱尸那城にて八万四千代） — 広面 — （波羅痾斯城にて十万代） — 地主 — （無戰城にて一千代） — 持大地 — （弥恥羅城にて八万四千代） — 大天（弥恥羅城にて八万四千代） — 彌彌 — 正謝王 — 堅 — 佉努 — 近佉努 — 有佉努 — 極佉努 — 善見 — 正見 — 軍聽 — 悟了 — 大悟 — 悟軍 — 無憂 — 離憂 — 統果 — 善合 — 大声 — 殺大声 — 明旦 — 坊主 — 鬪戰 — 生怖 — 慶喜 — 鏡門 — 能生 — 普生 — 最勝 — 飲食 — 多飲食 — 難勝 — 極難勝 — 安立 — 善立 — 大力 — 勝大力 — 善慧 — 勝堅固 — 十弓 — 百弓 — 新弓 — 妙色弓 — 勝弓 — 堅弓 — 十輦 — 百輦 — 千輦 — 妙色輦 — 牢輦 — （善議城にて七万七千代） — 果仙王 — 龍護 — （波羅痾斯城にて一百一代） — 吉枳（このとき迦葉如来の元で釈迦牟尼菩薩は觀史多天に生まれた） — 善生 — （補多羅城にて一百一代） —

耳生 — 喬答摩（出家した） — 暖生（喬答摩、身生とも。長子 日種、甘蔗種と呼ばれた。叔父の波羅墮



⑫法立共法炬訳「大樓炭経」(大正01 p.309上) ;

大王-真-斉-頂生-遮留-和行-留至-日-波那-大波那-沙竭-大善見-提炎-染-迷留-摩留-精進力-堅賤-十車-舍羅-十丈-百丈-那和檀-真閻-波延

- 迦奴車 -- 五
- 多盧提 -- 五
- 阿波 -- 七
- 健陀利 -- 七
- 迦陵 -- 九
- 遮波 -- 十四
- 拘獵 -- 三十一
- 般闍 -- 三十二
- 彌尸利 -- 八萬四千
- 摩彌 -- 百一 -- 大善生

(人呼為伊摩) - 烏獵 - 不尼 - 師子 - 悅頭檀 - 悉達菩薩 - 羅云

⑫閣那崛多等訳「起世経」(大正01 p.363上) ;

大平等王-意喜王-正真王-最正真王-受斎戒王-頂生王-右髀王-左髀王-右膝王-左膝王-已脱王-已已脱王-体者王-体味王-果報車王-海王-大海王-奢俱梨王-大奢俱梨王-茅草王-別茅草王-善賢王-大善賢王-相愛王-大相愛王-叫王-大叫王-尼梨迦王-那瞿沙王-狼王-海分王-金剛臂王-牀王-師子月王-那耶邸坻王-別者王-善福水王-熾熱王-作光王-曠野王-小山王-山者王-焰者王-熾焰王-(通多羅城にて一百一王)-降怨王-(阿踰闍城にて五万四千王)-難勝王-(波羅奈城にて六万三千王)-難可意王-(迦毘羅城にて八万四千王)-梵徳王-(白象城にて三万二千王)-象徳王-(拘尸那城にて三万二千王)-藿香王-(優羅奢城にて三万二千王)-那伽那嗜王-(難降伏城にて三万二千王)-降他王-(葛那鳩遮城にて一万二千王)-勝軍王-(後波城にて一万八千王)-天龍王-(多摩梨奢城にて二万五千王)-海天王-(多摩梨奢城にて一万王)-海天王-(檀多富羅城にて一万八千王)-善意王-(王舎城にて二万五千王)-善治化王-(波羅奈城にて一千一百王)-大帝君王-(茅主城にて八万四千王)-海天王-(通多羅城にて一千五百王)-苦行王-(茅主城にて八万四千王)-地面王-(阿踰闍城にて一千王)-持地王-(波羅奈城にて八万王)-地主王-(寐鬚羅城にて八万四千王)-大天王-(寐鬚羅城にて八万四千王)-尼寐王-没王-豎齊王-訶奴王-優波王-奴摩王-善見王-月見王-聞軍王-法軍王-降伏王-大降伏王-更降王-無憂王-除憂王-肩節王-節王-摩羅王-婁那王-方主王-塵者王-迦羅王-難陀王-鏡面王-生者王-斛領王-食飲王-饒食王-難降王-難勝王-安住王-善住王-大力王-力徳王-豎行王-(迦提波城にて七万五千王)-菴婆梨沙王-善立王-(波羅大城にて一千一百王)-雞梨祁王(この時迦葉如来の元で菩薩は兜率天に生まれた)-善生王-(通多羅城にて一百一王)-

耳者王 — 瞿曇 — 甘蔗種王 — (通多羅城にて一百一甘蔗種王) — 不善長王 — 優牟佉
 — 婆羅墮闍 — 金色
 — 似白象
 — 足瞿王 — 天城王 —

牛城王 — (迦毘羅婆城にて七万七千王) — 広車王 — 別車王 — 堅車王 — 住車王 — 十車王 — 百車王 — 九十車王 — 雑色車王 — 智車王 — 広弓王 — 多弓王 — 兼弓王 — 住弓王 — 十弓王 — 百弓王 — 九十弓王 —

雑色弓王 — 智弓王 — 師子頰 — 浄飯 — 悉達多 — 羅睺羅
 — 難陀
 — 白飯 — 帝沙
 — 難提迦
 — 斛飯 — 阿泥婁駄
 — 跋提梨迦
 — 甘露飯 — 阿難陀
 — 提婆達多
 — 甘露(女) — 世婆羅
 — 師子足

⑬達摩笈多訳「起世因本経」(大正01 p.417下) ;

大平等王(摩訶三摩多) — 乎盧遮(隋言意喜) — 柯梨耶哪(隋言正真) — 婆羅柯梨耶哪(隋言最正真也) — 烏逋沙他(隋言斎戒) — 頂生王 — 右髀王 — 左髀王 — 右膝王 — 左膝王 — 已脱王 — 已已脱王 — 體者王 — 体味王 — 果報車王 — 海王 — 大海王 — 奢俱梨王 — 大奢俱梨王 — 茅草王 — 別茅草王 — 善賢王 — 大善賢王 — 相愛王 — 大相愛王 — 叫王 — 大叫王 — 尼梨迦王 — 那瞿沙王 — 狼王 — 海分王 — 金剛臂王 — 床王 — 師子月王 — 那耶坻王 — 別者王 — 善福水王 — 熱惱王 — 作光王 — 曠野王 — 小山王 — 山者王 — 焰者王 — 熾焰王 — 子孫相承して一百一代 — 降怨 — (於阿踰闍城にて) 五萬四千王 — 難勝 — (波羅奈城に

て) 六萬三千王-難可意-(柯篲囉城にて) 八萬四千王-梵德-(白象城にて) 三萬二千王-象德-(拘尸那城にて) -三萬二千王-藿香-(優羅奢城にて) -三萬二千王-那伽那嗜-(難降伏城にて) 三萬二千王-降者-(葛那鳩遮城にて) 一萬二千王-勝軍-(波波城にて) 一萬八千王-天龍-(多摩梨奢城にて) 二萬五千王-海天-(多摩梨奢城にて) 一萬王-海天-(檀多富羅城にて) 一萬八千王-善意-王舎大城にて) 二萬五千王-善治化-(波羅奈城にて) 一千一百王-大帝君-(茅主大城にて) 八萬四千王-海天-(逋多羅城にて) 一千五百王-苦行-(茅主大城にて) 八萬四千王-地面-(阿踰闍城にて) 一千王-持地-(波羅奈大城にて) 八萬王-地主-(寐亡毘反) 洩(湯梨反) 羅城にて) 八萬四千王-大天-(寐洩羅大城にて) 八萬四千刹帝利王-尼寐王-没王-堅齊王-軻呬王-優波王-呬摩王-善見王-月見王-聞軍王-法軍王-降伏王-大降王-更降王-無憂王-除憂王-肩節王-王節王-摩羅王-婁那王-方主王-塵者王-迦羅王-難陀王-鏡面王-生者王-斛領王-食飲王-饒食王-難降王-難勝王-安住王-善住王-大力王-力德王-堅行王-(迦奢婆波城にて) 七萬五千王-菴婆梨沙-善立-(波羅大城にて) 一千一百王-梨梨祁(彼時有迦葉如来阿羅訶三藐三仏陀出現世間、菩薩於彼修行梵行、生兜率天)-善生-(逋多羅城にて) 一百一王-

耳-瞿曇

-婆羅墮闍-甘蔗種-(逋多羅城にて) 一百一甘蔗種王-不善長-優牟佉
 -金色
 -似白象
 -足栗-天城-(迦毘羅婆蘇

都城にて) 七萬七千王-広車王-別車王-堅車王-住車王-十車王-百車王-九十車王-雜色車王-智車王-広弓王-多弓王-兼弓王-住弓王-十弓王-百弓王-九十弓王-雜色弓王-智弓王

師子類-浄飯-悉達多-羅睺羅
 -難陀
 -白飯-帝沙童
 -難提迦
 -斛飯-阿泥婁駄
 -跋提梨迦
 -甘露飯-阿難陀
 -提婆達多
 -(女) 不死-世婆羅
 師子足

[B] 仏伝經典

⑩十二(大正04 p.146中) ; 阿僧祇劫の昔、国王は弟に王位を与え、婆羅門瞿曇の下で道を学ぶ。修行中、賊と間違えられて殺される。その時の流血から男女二人が誕生する「於是便姓瞿曇氏。一名舎夷仁。賢劫来始為宝如来釈迦越……」

⑪仏讚(大正04 p.001上) ; 甘蔗之苗裔 釈迦無勝王 浄財徳純備 故名曰浄飯 群生衆瞻仰 猶如初生月 王如天帝釈 夫人猶舎脂 執志安如地 心浄若蓮花 假譬名摩耶

⑫BC. (01-01) ; その昔敵すべからざるシャカ族には、由緒あるイクシュヴァークの苗裔、威力まさに一門の創設者イクシュヴァークその人に匹敵するシュッドーダナと名づける王があった。帝釈天にその威力匹敵するこの王には、その壯麗なること神妃紛う妃があり、その名をマハーマーヤーと呼ばれていた。

⑬過去(大正03 p.623中) ; 諸族種姓釈迦第一甘蔗苗裔聖王之後。

⑮集経（大正03 p.672上）；

大衆平章（王、刹利王、田主）－真実－意喜（自用）－智者（受戒）－頂生－大海－具足（敷）
－養育－福車－解脱－善解脱－逍遙－大逍遙－照曜－大照曜－意喜－善喜－満足－大満足－養育
－福車－人首領－火質－光炎－善譬冠－空冠－善見－大善見－須彌－大須彌－（褒多那城にて一
百一代）－師子乘－（波羅捺城にて六十一代）－女乘－（阿踰闍城にて五十六代）－巖熾生－
（迦毘梨耶城にて一千代）－梵德－（阿私帝那富羅城にて二十五代）－象将－（徳叉尸羅城にて
二十五代）－護－（奢耶那城にて一千二百代）－能降伏－（迦那鳩闍城にて九十代）－勝将－
（瞻波城にて二千五百代）－龍天－（王舍城にて二十五代）－作闍－（拘尸那竭城にて二十五代）
－大自在天－（菴婆羅劫波城にて二十五代）－大自在天－（檀多富羅城にて二十五代）－善意
－（多摩婆頗梨多城にて二十五代）－無憂鬘－（寐洩羅城にて八万四千代）－毘紐夫－（毘褒多
那城にて一百一代）－大自在天－（寐洩羅城にて八万四千代）－魚王－真生（掘王）－平等行王
－闍火－焰熾－善譬－虚空－戒行－無憂－離憂－除憂－勝将－大将－胎生－明星－方主－塵－善
意－善住－歡喜－大力－大光－大名称－十車－二十車－妙車－歩車－十弓－百弓－二十弓－妙色
弓－罪弓－海将－難勝－茅草－大茅草－（褒多那城にて一百八代）－大茅草（其王無子。……剃
除鬚髮。捨於王位。出家修道。……一獼師。……遙見王仙。謂是白鳥。遂即射之。……有兩洩血
出墮於地。……即便生出二甘蔗。……其一莖蔗。出一童子。更一莖蔗。出一童女。）

－ 善生（甘蔗生、日種）－

||| 善賢（水波、第一王妃）

第二妃 -- 炬面（国外追放。釈迦（能）の姓を立てる。迦毘羅婆蘇都に住む。三子没して、末弟が
王となる。）
－ 金色
－ 象衆
－ 別成（尼拘羅）－ 拘盧－ 瞿拘盧－ 師子頰

⑯MV. (vol. I p.348, Jones I p.293) ；

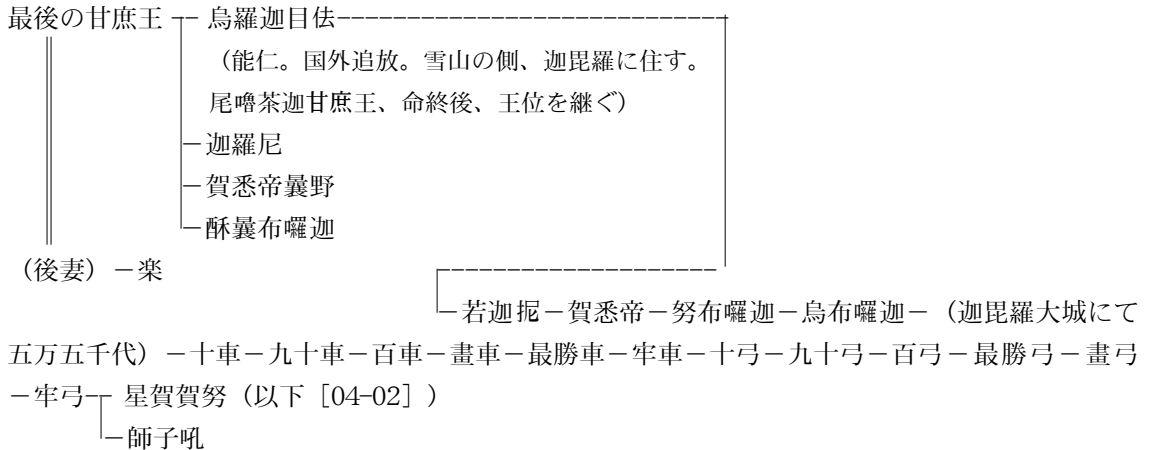
Mahāsammata－Kalyāṇa－Rava－Upoṣadha－Māndhātṛ－（数千代）－

Ikṣvāku Sujāta（Śāketa市の王） -- Opura（国外追放される。Kapila仙人の住むヒマラヤ麓のSākoṭa樹
の森に入る。能く治めるからŚākiya（能仁）と呼ばれる。
都市（Kapilavastu）を建設する。）
－ Nipura（国外追放される。Opuraの後を継ぎ王となる）
－ Karakaṇḍaka（国外追放される。Nipuraの後を継ぎ王となる）
－ Ulkā mukha（国外追放される。Karakandaの後を継ぎ王となる）
－ Hastikaśirṣa（国外追放される。Ulkāmukhaの後を継ぎ王となる）
－ Suddhā（女）
－ Vimalā（女）
－ Vijitā（女）
－ Jalā（女）
－ Jalī（女）
Jenti（内縁の妻）－ Jenta
－ Hastikaśirṣa－Siṃha－hanu（以下【04－02】）

⑰衆許（大正03 p.933下）；

三摩達多（田主、刹帝利姓）－愛子－善友－最上－戒行－頂生（我嬭王）－尼嚕－烏波尼嚕－室
尼嚕－摩尼嚕－嚕啣－酥嚕啣－母啣－母啣鱗捺－阿譏－阿儼囉他－婆儼囉他－婆譏囉－摩賀娑譏

囉－舍矩禰－摩賀舍矩禰－矩舍－烏波矩舍－摩賀矩舍－酥捺哩舍曩－摩賀酥捺哩舍曩－鉢囉拏那
 －摩賀鉢囉拏那－鉢囉拏那－摩賀鉢囉拏那－鉢囉半迦囉－鉢囉多波－囉彌嚧－彌嚧摩多－阿哩唧
 －囉哩唧瑟摩－曩哩唧瑟摩多－阿哩止娑滿多－（布多羅迦城にて一百代）－降怨－（阿喩駄也城
 にて五万四千代）－無能勝－（波羅奈国にて六万代）－耨鉢囉娑訶－（緊閉羅城にて八万四千代）
 －梵授－（賀悉帝曩布里城にて三万二千代）－賀悉帝捺多－（怛叉尸羅城にて五千代）－波多黎
 薩－（烏囉娑大城にて三万二千代）－曩誡曩囉曩－（無能大城にて三万二千代）－勝軍－（瞻波
 大城にて一万八千代）－龍天－（怛摩黎多城にて二万五千代）－仁－（怛摩黎多城にて一万二千
 代）－海－（難多布里也城にて一万八千代）－妙意－（王舍城にて二万五千代）－娑多護努那
 －（波羅奈国にて一百代）－大軍－（矩舍嚧帝大城にて一千代）－海軍－（補多羅迦城にて一千
 代）－娑多半尼囉－（矩舍嚧帝城にて八万四千代）－摩嚧目佉－（波羅奈国にて十万代）－摩嚧
 鉢帝（地主）－（阿喩駄大城にて一百代）－持世－（彌體羅城にて八万四千代）－大天－（彌體
 羅城にて八万四千代）－彌彌－摩娑努－涅里姪彌彌佉努－嚧波佉努－佉努摩曩－佉努滿多－酥涅
 里舍－娑涅里舍－酥嚧多細曩－達魔細曩－尾彌多－摩賀尾彌－尾彌多細曩－阿輸迦－尾誡多輸迦
 －頗羅娑埵－惹羅娑埵－没度摩囉－阿嚧拏－彌扇波帝－里娑－商迦囉迦－阿難那－阿那里舍目佉
 －惹那迦－散惹曩佉－惹曩娑娑－案曩播曩－鉢囉祖囉曩播曩－阿囉多－波羅囉多－鉢囉底瑟恥多
 －酥鉢囉底瑟恥多－摩賀摩羅－嚧賀曩－酥摩帝－涅里姪嚧賀－捺捨駄努－設多駄努－曩嚧帝駄努
 －室左怛囉駄努－尾囉多駄努－涅里姪駄努－捺捨囉他－（僧迦大城にて七万七千代）－阿末麗沙
 －龍護－（波羅奈国にて一百代）－訖哩吉－（この時、仏世尊、訖哩吉王宮に下生）－善生－
 （一百王）－迦囉拏－瞿曇（出家して訖哩瑟拏吠波野拏仙人の弟子となる。姪女殺害の罪をきせられ、
 処刑。その際、「滴二滴精墮地面上……生二童子」）
 －娑囉捺嚧惹（王位を紹ぐ、嗣子なし）－童子（日族、瞿曇、阿儼囉娑、甘蔗を
 姓とする。娑囉捺嚧惹の王位を継ぐ。甘蔗王）－（補多落迦城にて一百代）－



⑰衆許（大正03 p.936中）；乃為立名名為日族為第一姓……因立瞿曇為第二姓……因立阿儼囉娑為第三姓……因立甘蔗為第四姓。

[C] 後世の 仏伝資料

- ① 釈迦（大正50 p.001中）；釈迦始祖劫初刹利相承姓縁譜第一（出長阿含經）
- ① 釈迦（大正50 p.003上）；釈迦賢劫初姓瞿曇縁譜第二（出十二遊經）
- ① 釈迦（大正50 p.003下）；釈迦近世祖始姓釈縁譜第三（出長阿含經）
- ③ 氏譜（大正50 p.085上）；但明仏姓自分五別。一曰瞿曇。二曰甘蔗。三曰釈迦。四曰舍夷。五曰日種。
- ④ 統紀（大正49 p.139上）；序曰。世人皆知如来為刹帝利之聖種而終莫能委瞿曇釈迦前後立号之

義。須知言瞿曇者。有四義焉或純淑。或最勝。此從本德。以為稱也。或甘蔗。或日種。此就本緣以為言也。其稱釈迦者則有三名。拋德建号。則曰能仁。依処稱名。則云舍夷之與直林。然釈迦之起。實見於甘蔗王之四子。甘蔗梵語。既為瞿曇。則釈迦之稱。實自瞿曇出。前瞿曇。後釈迦。雖有二稱。其實一姓。前人有以日種甘蔗舍夷並列為五氏者。本末粉揉。無所取裁。

- ⑤JM. (p.021, 畑中 p.085) ; この劫(賢劫 Bhaddakappa) の最初の時代に、我々の世尊は、まず最初に大衆によって選ばれたことにより、(Mahāsammata) と呼ばれる王になった。

Mahāsammata — Roja, Vararoja, Kalyāṇa, Varakalyāṇa, Uposatha, Mandhātar, Varamandhātar, Caraka, Upacaraka, Cetiya, Mucala, Mahāmucala, Mucalinda, Sāgara, Sāgaradeva, Bharata, Bagīratha, Ruci, Suruci, Patāpa, Mahāpatāpa, Panāda, Mahāpanāda, Sudassana, Mahāsudassana, Neru, Mahāneru, Accimaの28人(Kusāvati, Rājagaha, Mithilāという3つの都城で) — Kusāvatiにて100人、その最後がArindama—Ayojjhāにて56人、その最後がDuppasaha—Bārāṇasīにて60人、その最後がAjita — Kapilaにて8万4千人、その最後がBrahmadatta—Hatthipuraにて36人、その最後がKambalapasaha — Ekapakkhaにて32人、その最後がPurindada — Vajiravatiにて28人、その最後がSādhina—Mathurāにて22人、その最後がDhammagutta — Ariṭṭhapuraにて18人、その最後がSivi — Indapattaにて17人、その最後がBrahmadeva — Ekapakkhaにて15人、その最後がBaladatta — Kolaṭṭhiにて14人、その最後がHatthideva — Kaṇṇakochiにて9人、その最後がNaradeva — Rojaにて7人、その最後がMahinda — Campāにて12人、その最後がNāgadeva — Mithilāにて25人、その最後がSamuddadatta — Rājagahaにて25人、その最後がDivānkara — Takkasilāにて12人、その最後がTāḷissara — Kusinārāにて12人、その最後がSudinna — Malittiyaにて9人、その最後がSāgaradeva — MithilāにてMakhādevaを始めとする8万4千1人、その最後がNimi — BārāṇasīにてKaḷārajanaka, Sumānkara, Asoka等を始めとする8万4千3人、その最後がVihāsaya — BārāṇasīにてVijitasena, Dhammasena, Nāgasena, Samatha, Disampati, Reṇu, Kusa, Mahākusa, Bharata Dasaratha Rāma, Biḷāraratha, Cittaraṃsi, Amabaraṃsi, Sujāta, Okkākaの16人、一数十万の王、その最後に再びOkkāka — 数千の王、その最後にさらにOkkāka — KapilaにてOkkāmuḥka, Nipura, Candimant, Candamukha, Siri, Sañjaya, Vessantara, Jālin, Sivivāhana, Sihassaraの10人—Sihassara Kapilaにて82000人、その最後がJayasena。(以下 [04-02])

- ⑥Bigandet. (vol. I p.010, 赤沼 p.013) ; 中国に於て、摩訶三摩達多王(Mahathamadat)より、婆羅那斯国の甘蔗王(Ookakaritz)に至るまで25萬2千5百56人の王が君臨せられた。……迦維羅城(Kapilawat)の最初の主たる炬面王(Ookamukka)からエーッサンタラ(Wethandra)太子にいたるまで七王治化し、エーッサンタラの子ジャーリ(Dzali)から釈尊の曾祖父ジャヤセーナ(Dzeyathana)王にいたるまで、8萬2千2人の王が相續いて君臨した。

【04-02】釈尊の家系——親族

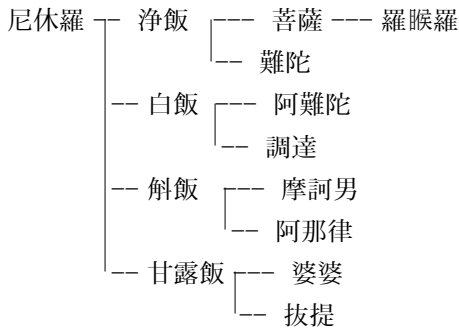
釈尊の父・母・叔父・叔母・従兄弟・子の名を示す。

[A] 原始聖典

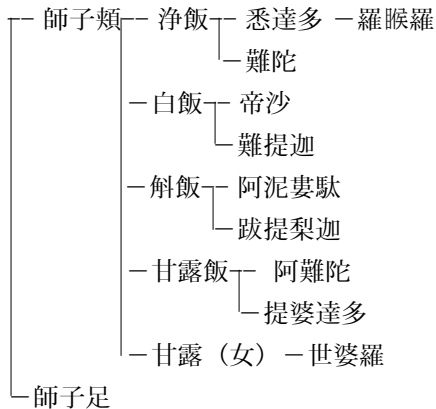
- ①DN.014 ‘Mahāpadāna-s.’ (大本經 vol. II p.007) ; 私の父はSuddhodana王、生みの母はMāyā devīである。
- ① ‘Theragāthā’ Vs.534 (p.057) ; Suddhodanaは大仙人(釈尊)の父、Mahāmāyāは仏陀の母、菩薩を母胎によって守り(bodhisattam parihariya kucchinā)、死んで三十三天において楽しんで

だ。

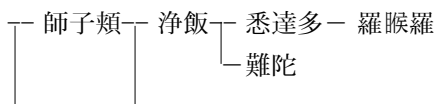
- ① ‘Buddhavaṃsa’ 02-65 (p.013) ; 生母をマーヤー (Māyā) と名づけ、父をスッドーダナ (Suddhodana) と名づけ、彼はゴータマ (Gotama) となるであろう。
- ① ‘Buddhavaṃsa’ 26-13 (p.097) ; 私の父はSuddhodana王、生みの母はMāyā devīという。
- ②長阿含経001「大本経」(大正01 p.003下) ; 我父名浄飯刹利王種、母名大清浄妙。
- ②長阿含030「世記経」(大正01 p.149中) ; 師子頰-白浄王-菩薩-羅睺羅
- ⑥増一阿含26-06 (大正02 p.637中) ; 父名真浄、母名摩耶。
- ⑦四分律「受戒毘度」(大正22 p.779中) ; 師子頰-悦頭檀-菩薩-羅睺羅
- ⑧五分律 (大正22 p.101中) ;

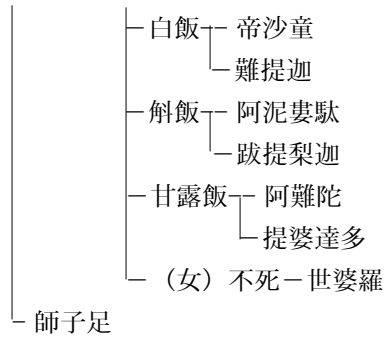


- ⑩根本有部律「藥事」(大正24 p.055下) ; 父名浄飯。母号摩耶。城名劫比羅。賢子羅怛羅。
- ⑩根本有部律「破僧事」(大正24 p.105上) ; 其堅弓王而有二子、一名師子頰、二名師子吼。此瞻部洲所有一切善射之者師子頰王最為上首。其師子頰王而有四子、一名浄飯、二名白飯、三名斛飯、四名甘露飯。師子頰王復有四女、一名清浄、二名純白、三名純斛、四名甘露。浄飯王有二子、其最大太子即我薄伽梵是、其第二者即具寿難陀是。白飯王有二子、一名恒星、二名賢善。斛飯王有二子、一名大名、二名阿那律。甘露飯王有二子、一名慶喜、二名天授。其清浄女誕生一子、名曰善悟。純白有子、名曰有鬘。純斛有子、名曰勝力。甘露有子、名曰大力。我薄伽梵有子、名曰羅怛羅。始從地主大王乃至羅睺羅斷其繼嗣。
- ⑫法天訳「七仏経」(大正01 p.150下) ; 我今忉正等覺父名浄飯王、母名謨訶摩耶、城名迦毘羅。
- ⑫失訳「七仏父母姓字経」(大正01 p.159下) ; 今我作釈迦文尼仏。父字閼頭檀刹利王。母字摩訶摩耶。所治国名迦維羅衛。先大王名槃提。
- ⑫法立共法炬訳「大樓炭経」(大正01 p.309上) ; 師子-悦頭檀-悉達菩薩-羅云
- ⑫闍那崛多等訳「起世経」(大正01 p.363上) ;



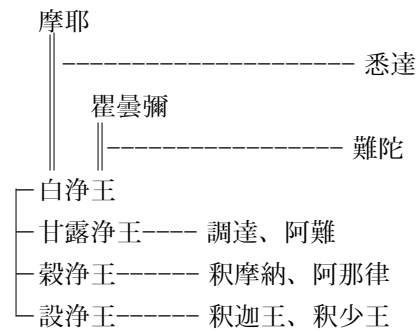
- ⑫達摩笈多訳「起世因本経」(大正01 p.417下) ;





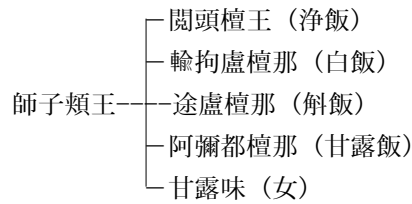
[B] 仏伝經典

⑩十二 (大正04 p.146下) ;

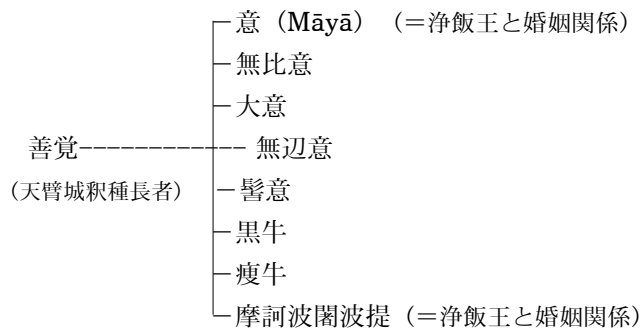


⑮集經 (大正03 p.675下) ;

(父方)

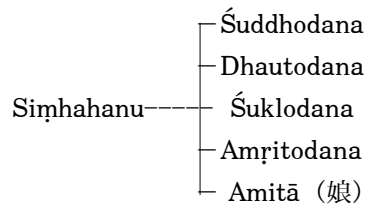


(母方)

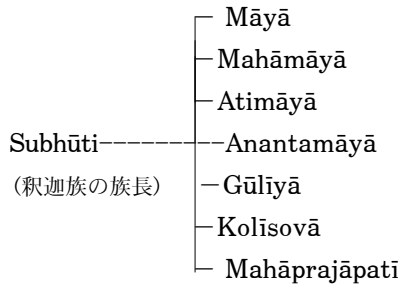


⑯MV. (vol. I p.352, Jones I p.298) ;

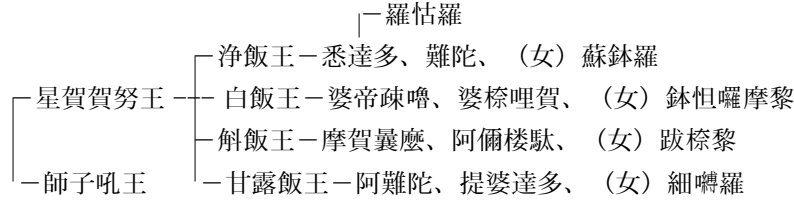
(父方)



(母方)



⑰衆許 (大正03 p.937下) :



[C] 後世の仏伝資料

⑤JM. (p.021, 畑中 p.085) ; また彼らのうちの最後はJayasenaと呼ばれる王であった。彼にはSihahanuとYasodharāという2人の子供がいた。そして、Devadaha城には釈氏Devadahaと呼ばれる王がいた。彼にもAñjanaとKaccānāという2人の子供がいた。彼らのうち、KaccānāはSihahanu王の第一夫人となった。Jayasenaの娘Yasodharāは釈氏Añjanaの第一夫人となった。釈氏Añjanaにも、MāyāとPajāpatīという2人の娘、DaṇḍapāṇinとSuppabuddhaという2人の息子がいた。Sihahanu王には、Suddhodana, Dhododana, Sakkodana, Sukhodana, Amitodanaという5人の息子、AmitāとPamitāという2人の娘がいた。彼女たちのうち、AmitāはSuppabuddhaの第一夫人となった。彼女にはSubhaddakaccānāとDevadattaという2人の子供がいた。釈氏Añjanaの娘MāyāとPajāpatīとは、釈氏Suddhodanaの第一夫人となった。彼女たちのうち、Māyāの息子がSiddhatthaと呼ばれる我らの菩薩である。釈氏Suppabuddhaの子でDevadattaの妹であるSubhaddakaccānāと呼ばれる娘が、我らの菩薩の第一夫人となった。彼女にもRāhulabhaddaと呼ばれる息子があった。

⑥Bigandet. (vol. I p.013, 赤沼 p.017) ;

[父方]

